

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「一流の素材」より・・・「二流のプロ」でいこう！～

成功者の特徴として、「**行動しながら考える**」というものがあるそうです。
行動するまえにあれこれ考えていると、ネガティブな考えが浮かびやすいのだとか・・・。
やると決めたら行動し、やりながら成長していくのがいいみたいですね。

約十年ほど前、英語学習雑誌の編集者にこんな話を聞いた。
「うちの読者はみなさん、すごくまじめなんです。アメリカやイギリスを
旅行したい、留学したいと思って・・・一生懸命、英語を勉強するんですが、
どれだけやっても『まだ英語力が足りない』と思ってしまい・・・
いつまでたっても現地に行けない。そういう人がすごく多いんです」



もはや何のために英語を勉強しているのかわからず、本末転倒も甚だしいが、これを笑う気にはなれない。私も、こちらのタイプだからだ。

このタイプは、理想やプライドが高い。何かやるからには極めなければいけないと思っている。

二流を認めず一流をめざす癖がある。そして、理想の高さゆえに、なかなか第一歩が踏み出せない。

こういう人は頭の中でいろいろシミュレーションをするのが好きだ。シミュレーションしすぎて、悪い想像力も働くので「強盗にあったときリスニングが悪いと命にかかわるかも」なんて思って、また英語の勉強に励むということになる。

アメリカ行きが恋愛や仕事に変わっても同じだ。

「もっと自分を磨いてから相手にアプローチしよう」とか

「もっとちゃんと準備してから店を出そう」などと考える。

このタイプには研究熱心な人が多いから、知識は増える。批評眼も肥える。

そして、プライドはますます高まる。

同じ一流でも、実行しないかぎり「一流の素材」ととどまってしまうのだが、

それがまた「未完の大器」みたいな錯覚がして気持ちよかったりもする。

一流の素材より、二流のプロのほうがずっとマシである。最初から一流でなく二流をめざすべきとはそういう意味で、自分に言い聞かせているのである。



「間違う力」 高野秀行著／角川新書

宝の地図は、それだけでは意味をなしません。どんなに素晴らしい地図
を手に入れたとしても、行動しなければ、宝は獲得できません。

「**まずやってみる!**」ということが大切で、行動しながら学んで行くものです。失敗したとしても、それは経験になります。

たとえその時、恥ずかしい思いをしたとしても・・・

「**もっと頑張ろう! 自分を磨こう!**」って、さらに奮起するのではないで
しょうか。

「強くなろう! 優しくなろう! 面白くなろう! 賢くなろう! 成績をあげ
よう!」って。挑戦もしないで、行動もしないでいたら・・・

傷付くことはないかもしれませんが、成長もありません。

船は、港に停泊させるために造られたものではなく、航海をするために造られたのです。

カーナビも、目的地までの案内ができるのは、現在位置を知っているからです。 現在地が分からなければ、いくら目的地を入力しても目的地までの距離も・方角も分かりませんよね。

小さな一歩の積み重ねでもいい、ほんの少し、昨日の自分より誇れる自分になれるように、行動していきたいですね。

さあ、中間考査が始まります。「**自分の目標の進路や夢**」という「**地図**」のなかでの・・・

「**今の自分の現在位置**」を知ることができます。しっかり準備して臨んでください。

中間考査期間は、生徒指導部通心（信）はお休みします。

